

令和元年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市脇野沢リフレッシュセンター鱒の里、むつ市脇野沢野営場		
指定管理者	団体名	一般社団法人むつ市脇野沢農業振興公社	
	代表者	理事長 二本柳 茂	
	所在地	むつ市脇野沢七引201番地5	
指定期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日（3年間）		
指定管理業務の概要	(1) 交流事業等による地域の活性化 (2) 施設、設備の提供 (3) 施設の使用許可、使用に係る料金徴収 (4) 施設の維持及び修繕		

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。 単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収 入 合 計 (A)	7,407	7,009	△398
うち利用料金額	900	502	△398
うち指定管理料	6,507	6,507	0
支 出 合 計 (B)	7,407	7,009	△398
うち人件費	3,857	3,942	85
収支差 (A-B)	0	0	0
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	・バンガローの老朽化により利用者の減による収入の減 ・人件費、水道光熱費、修繕費の減（経費節減による減）		

3. 施設利用の状況 単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	鱒の里入館者数	30,000人	18,057人	△11,943人
	調理実習室利用日数	160日	0日	△160日
	バンガロー利用棟数	35棟	44棟	9棟
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) バンガローについては、老朽化が著しくまたカメムシ対策も困難を極めているが、できる限りの清掃と害虫駆除に取組み、利用者が快適に使用できるように努めた。 食堂は営業希望者がいないことから閉店とし、休憩スペースとして活用を行った。				

4. 自主事業の実施業況 単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
物産販売事業 (4/1～11/30)	6,000	8,414	7,875

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

リフレッシュセンター鱈の里は、昭和61年に観光交流施設として建設され、現在は「道の駅わきのさわ」としても利用されており、来訪者が気持ち良く利用できるよう努めている。

5人用バンガローは老朽化が激しく利用が困難な状態にあることから、今年度も引き続き一般の利用は中止し、6人用3棟と15人用2棟として管理運営を行った。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

施設の老朽化により、修繕等対応する箇所が多いながら清潔保持に努め、また人員配置を工夫するなど、経費削減にも努めている。閑散期である冬期について、昨年までは11月～3月まで規模縮小ながら、道の駅としての機能を維持するために、鯛島の館で観光案内所を開設していたが、鯛島の館まで足を伸ばす観光客が少なく、誘客効果も見られないことから、今年度開設出来なかったことは残念である。自主事業である物販事業において、観光客のPRとなるような工夫を期待したい。